

## 家庭は社会をまとめる“扇の要”

「修身齐家治国平天下」という言葉は、戦前まではよく使われたが、戦後はこれが古い「封建的」道徳だとして目の敵にされ、長ったらしいこともあって、それ以来ほとんど誰も口にしなくなった。しかし、これは我々の社会の健全化・再建の要諦というべき言葉であって、これを排したことが、いじめを始めとする現在の社会悪をつくり出したと言ってもよい。我々の運動では、これを易しく言い換えて、「人づくり、家庭づくり、国づくり」と言っている。

この古い儒教の教えのポイントは2つあって、「修身」(個人完成)から始めることで「治国・平天下」(国と世界の安定化)が達成できるということと、その間に「齐家」(家庭完成)がなければならず、これを飛ばしてはならないということである。

いわゆる左翼の主張はこれを逆にするものだった。世の中をよくしようと思えば、悪いことができないような社会の仕組みをまず作らなければならない、個人や夫婦・家庭などは後からついてくる、という考え方であった。これは社会革命がまず起こらねばならないという考え方で、ますますひどい混乱と悪を生み出すことになった。

実は、革命は一人ひとりの心の中で起こらねばならない。しかしここから一足飛びに、その原理を国家・世界に適用することはできない。夫婦・家庭が個人と社会をつなぐ存在として、社会の最小単位としてあるのだから、ここが崩れたままで国家や世界がよくなるということはありません。



渡辺 久義  
京都平和大使協議会議長

1934年、岐阜県生まれ。京都大学文学部卒、同大学院文学研究科修士課程(英米文学)修了。京都大学総合人間学部教授、摂南大教授を経て、現在、京都大学名誉教授、創造デザイン学会代表。著書に『ヘンリー・ジェームズの言語』『意識の再編』『善く生きる』他。

家庭はいわば、社会をまとめる“扇の要”のようなものであって、ここが壊れれば全体がバラバラになる。これは考えてみれば当たり前のことのようにだが、少なくともわが国ではそうでなかった。「公私の別」を尊重するのは美風だが、家庭を完全に「私」の側に組み込むことによって、これをおろそかにしてきたのではないだろうか。日本国憲法に家庭条項がないのも、それを反映しているのかもしれない。

1つの地域の家庭の崩壊率が30%を超えると、その地域全体の青少年の不良化が始まるという統計結果がある。本当だろうかと思っていたら、関西のある市でまさにそれが起こっているらしい。「ここでは離婚禁止法を作らないと、全くどうにもなりまへんな」と本気で言っている人がいた。間違いなく「本気」であった。友達の家に遊びに行くと、いつもお父さんやお母さんが入れ替わっている、しかもその地域の子供はそれを怪しいとも思わない、というようなことになったとしたら——考えるのも恐ろしいではないか。



### 「人づくり、家庭づくり、国づくり」国民運動

8つの約束「ファミリー・プロミス(家族の約束)」を掲げながら、家庭を基礎とした新しい国づくりを目指し、全国各地で様々な草の根運動を展開しています。愛と性の倫理を高め、家族への責任を果たす決意としての「ファミリー・プロミス」にご賛同頂き、ともに新しい日本の国づくりの輪を広げていきましょう。

## 活動レポート



### ボランティア活動 (GPA ファミリー久喜) エントリー団体

GPA ファミリー久喜の奉仕活動日、第2土曜日の9月8日、7人の参加者でいつもの市役所通りの除草作業を行いました。市役所通りの銀杏並木はとても美しく青々と茂っています。その下の植栽はと言えばお世辞にも美しいとはいえない有様！雑草がいっぱい！そして植えられたものではない雑木が本来の臍月を超えて成長し大分太く成長しています。お陰で臍月は肩身の狭い風体で、随分と枯れてしまったものが目立ちます。



全員汗だくになって、約1時間半作業をし、随分綺麗になりました。作業を終えた後の「キーン」と冷えた飲み物の旨さは格別でした。皆さん有難う御座いました。

### ラリー&マーチ (北海道協議会)



8月9日、高く澄みわたった青空のもと、札幌市大通公園で150名の中高生を中心に「Pure Love 2012 in 北海道」を開催しました。ラリーでは、最初に谷口博北海道平和大使協議会議長から「このように若い人たちが純潔の重要性を訴えていることに非常に感動しました。その思いをいつまでも持ち続け、立派な家庭を作っていくって欲しい」と激励の言葉を頂きました。その後、公園内4カ所に分かれて純潔の大切さを全員でアピールし、ラリーの最後には、全員で「ピュアラブ宣言」をし、大通公園周辺のデモ行進に出発しました。



## 月間家族川柳大賞! 8月度大賞

メダリスト かげで支える 家族力  
ペンネーム たかひろ さん

あなたの身の周りの家族や地域の情景を川柳にしてみませんか。詳しくは公式サイトをご覧ください。

## 親子で心を育てる農業体験

もうすぐ実りの秋。田舎のあぜ道に立つと、春先に植えた苗が田んぼで波打っているのが見えてきます。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」学問や徳のある人ほど謙虚だという意味の日本のことわざです。でも、実際に実った稲穂を手にしたことのない子供たちには、このことわざの意味が理解できないかも知れません。日本には、稲作や農業から生まれた知恵や人生訓が多いのですが、生活環境の変化から、それらを子供たちに伝えるのが難しくなっています。

タマネギは木になるものだと思ったり、トマトが夏野菜だということ知らない子供も

少なくないそうです。

農業体験に参加したあと、子供たちが周囲の大人に自然にあいさつするようになったり、食べ物を大切にしましたという報告もあります。

また、稲刈りに参加した子供たちは、大人が見せるみごとな鎌をさばきに、例外なく目を輝かせ、大人のいうことに素直に耳を傾けます。大人たちとの農業体験は、人間関係を学ぶことのできる絶好の場です。

自然の恵みを実感し、心に潤いを与えるためにも、子供たちにも農業を知る機会を与えたいものです。

## 秋分の日 (9月23日)

元々農村部では、春分の頃に豊作を祈り、秋分の頃に豊作を祝う自然信仰があり、山的神様である祖先の霊を春分以前に山から里に迎え、秋分以降に里から山へ送る儀式が行われていました。明治時代に秋分の中日を「秋季皇霊祭」と定め、宮中において祖先をまつる日となった事がきっかけで、一般市民の間でもそのように定着していきました。1948年には、お寺参りの日・先祖供養の日など、宗教的慣例としてのまつりの日だけではなく、広い意味で「祖先を敬い、亡くなった人を忍ぶ日」として国民の祝日に制定されました。

The Monthly News Letter

ファミリー・プロミス

「人づくり、家庭づくり、国づくり」国民運動

発行日 2012年9月20日 通巻17号

発行：平和大使協議会

「人づくり、家庭づくり、国づくり」国民運動推進委員会

住所：〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-13-2 成約ビル 5F

Tel : 03-3351-4311 Fax : 050-3488-7913

E-mail : info@kokuminundo.jp URL: http://www.kokuminundo.jp